



# トレーラ サービスニュース

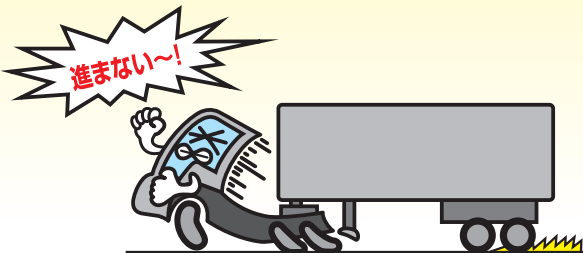
No.26 2008・8

## リレー・エマージェンシ・バルブ内の水分除去のお願い

❄️ ❄️ ブレーキ機器の凍結に注意! ❄️ ❄️

### リレーピストン内部の水分が凍ると...

定期的なメンテナンスで  
いつも「安心」「安全」運転を



トレーラのブレーキが  
ききっぱなしになる



トレーラのブレーキが  
きかなくなる

注意：厳冬期に入る前の日常点検でドレンが大量に出る場合は、トラクタのエアドライヤの点検整備を早めにしておくことをお勧めします。

貴方は知っていますか？リレー・エマージェンシ・バルブは3ヶ月（メーカー指定）・12ヶ月（法定）点検項目になっている事を。ブレーキ機器が凍結するとブレーキが作動しない為、非常に危険な状況になります。

特に冬季気温が氷点下にさがる地域においてはブレーキエア内に含まれた水分がリレー・エマージェンシ・バルブ等の内部で凍結し作動不良を起こす要因となります。

凍結を防止するために、凝水（ドレン）の排出を励行すると共にサービス工場にてリレーバルブ等の内部とリレーピストン部の水分除去を行って下さい。

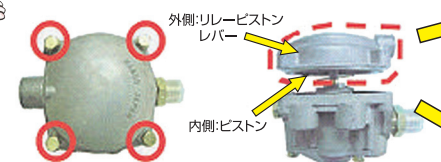
### 配管内の水除去及び水侵入防止のお願い

上記点検と同時にコントロールライン及びサプライラインの配管内をエアブローして水を排出したりホースカップリング部を外した時は常にキャップをする事で雨水の浸入防止にも効果が有ります。

#### 《例》RE-6※の場合

点検に行こう!!

RE-6※



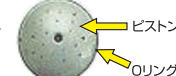
上下を分離し上部  
リレーピストンカバーを  
取り外す

リレーピストンカバーからピストンを  
取り外しリレーピストンカバーの水分除去をする



点線部に必ず  
専用グリスを塗布する

点検OK!!



リレーピストンカバーから  
引き抜いたピストンの上部の水分除去をする

注意：リレーピストンを本体に取り付ける時、  
Oリングに傷を付けないように注意する。  
Oリングに傷を付けたら、摩耗していたら交換して下さい。



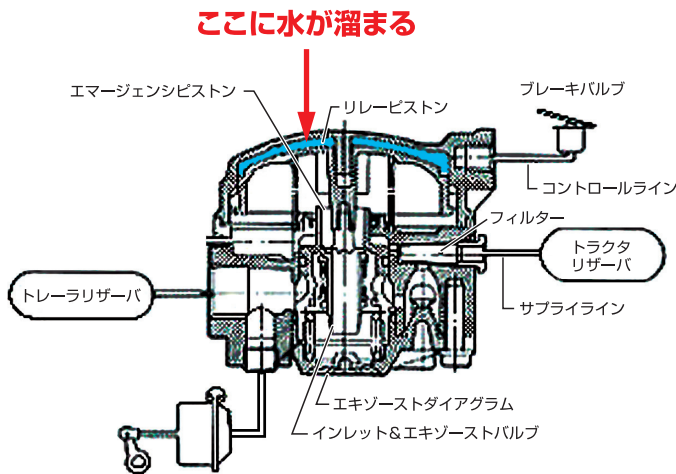
専門的な技術や機械工具を要する点検・整備については専門のサービス工場を受けて下さい。

# リレー・エマージェンシ・バルブ内ピストン部の水分除去方法

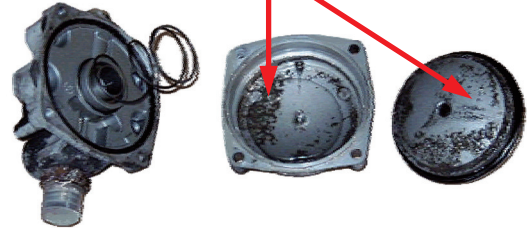
\*専門的な技術や機械工具を要する点検・整備については専門のサービス工場を受けて下さい。  
(本装置の分解整備を行う場合は整備要領書を読み作業を行って下さい。)

カバーを外し、更にリレーピストンも取り外し、カバー内面及びピストンの水分・スラッジ等を除去しカバー内面に専用グリス(リチウムベースグリスNo2相当)を塗布する。

## 《例》RE-6※の場合(分解内部写真)



## この部分の清掃を確実に(水分除去)



## 水分除去分解手順

1. コントロールラインのエア配管の取り外し。
2. リレーバルブカバーの六角ボルト4本を外す。
3. 上部カバーとピストンを本体より取り外す。
4. カバー部からピストンを分離する。(ピストンを分離時コントロールのポート部から圧縮エアを徐々に吹き込むと簡単に外れます)
5. カバー内側とピストン頭部の水分及び付着物を布等にて綺麗に清掃する。

※上記点検と同時にコントロールライン及びサブライラインの配管内をエアブローして水を排出して下さい。



## トラクタ側エアドライヤ点検のお願い

\*トラクタ側のエアドライヤを定期的に点検整備、フィルタを交換する。

冬季寒冷地においてブレーキ内に水分が含まれていると凍結して作動不良を起こす要因となりますのでエアータンクの水分除去を十分に行ってください。

尚、トラクタ側に装着されているエアドライヤはトラクタの取扱い説明書などに従って定期的に点検整備を行ってください。(日常点検でドレンコックから水が大量に出る場合はトラクタのエアドライヤの点検整備を早めに行うようにして下さい。)

## バルブ内の消耗品の定期交換のお願い

バルブを分解整備した場合はゴム部品(Oリング等)の交換及び専用グリスの塗布を同時に実施願います。

※詳細については各メーカーにお問い合わせ願います。

